仕上がるまで長い 器。独特の指使い

上がるまで長い努力も必要でした」と語ります。モンゴル人の先生独特の指使いをするので、慣れるまで本当に苦労しました。曲に

いました」

と当時を振り返ります。

「馬頭琴は二弦を抑えて弓を引き、

和音などの音色を表現する弦楽

自分に合う楽器を見つけて心が弾み、

ぜひ自分も演奏してみたいと思

けで馬頭琴を始めた岩﨑初江さん。「ゲルというモンゴル独自のテン

住居の中で聴いた現地の人による演奏を、今でも忘れられません。

魅力に引き込まれました」。

特有の音色と馬が草原を走るような軽快なリズム。

20年前にモンゴルを訪れたのがきっかるような軽快なリズム。すぐに馬頭琴

に教わりながら、

埼玉県行田市の小学校へ演奏しに行ったこともあります。

担任の女性の先生が涙を流して感動してく

ħ

40歳を過ぎて、 今ではこの楽器をや

打ち込めるもの

がけら楽

いな

時間を見付けては練習に打ち込んだそうです。

馬頭琴

馬頭琴は、モンゴル語で

ぶ。「馬の楽器」という意味

モンゴルの遊牧民の間に古

くから伝わる二弦楽器。弦

は馬のしっぽの毛を束ねて作

らており、同じく馬の毛を張っ

て作られた弓を使って演奏す

る。草原のチェロとも呼ばれる。

※小学生の国語の教科書に掲載

された「スーホの白い馬」に登場

する楽器としても馴染みがある。

はモリンホールと呼

その重厚な音色は、さわやかな風にのって

モンゴルの草原のように広く 響きわたっていました。

たれていましたね 毎日斬新で魅力的なデザインに心う ら退職を決意。不安とかは、 ンジの世界に足を踏み入れました。 は「ぶたもおだてりゃ木に登る」 思ってもみませんでした…。その時 お花屋さんになるなんて、 われたことが、きっかけで、 素質があるよ!あんた」と仲間に言 ジと出会ったのです。「ア 楽しむか。皆さんは考えたことがあ しての修業、そしてア いうことで、 お花はもともと好きでしたから、 ました。そんな時フラワーア 私は26年間、 していた6年生を卒業させてか 度しかない自分の人生をどう ませんでした。 そのままフラワー 小学校の フラワーア レンジの勉強、 お花屋さんと 教師をして レンジの 当時は まった まさか レンジ レン

自分が輝ける瞬間

My life style

街角特派員の高橋敏子さんは、花屋を営む傍らフラワーア レンジの講師もしています。趣味の分野では、よさこいソー ラン、合唱など現在幅広く活動中。今回、フラワーアレン ジやサークル活動などを通して出会った人たちを紹介しな

がら、「自分が輝ける瞬間」についてレポートします。 フラワ がら、 たちと出会い いました。

が輝ける瞬間」 間」についてレポ 彩りを添えている人たちを紹介しな 趣味や楽しみを持って自分の生活に 度自分の生活を振り返り、 それぞれ トを読んだ人が、 します

んの

今回の街角特派員レポ の「自分が輝ける瞬 トでは、 もう

民館での活動が縁でサ 公民館祭りや町民文化祭でフラワ 公民館で活動し始めて、 レンジの体験コー レンジ」も行っています。 ンを素材に独自に考案した「パ います。 レンジをさらに発展さ 現在生徒もいます。 3年前からは クルなどに すでに20 その後は 公

させた「パンアレンジ」を考案。パンと花、それ と日常的にあるものを組み合わせてアレンジす るというものです。ときには本物のパンを使い、

食べながらちぎりながら作品を作ります。完成すると写真に記録し て、その日のうちに食べてしまうそうです。三年前、ベルギー大使館 開催の作品展がきっかけで、独創的なアレンジが生まれたといいます。 ヨーロッパでも高い評価を受けているパンアレンジ。今年、モンゴル国

際大学の美術館にも展示され、学生の前で授業する機会にも恵まれました。

皆さんを勇気づける作品へ

被災地の一日も早い復興を祈り作り上げた作品「祈り」。 写真は 2011 年 12 月 21 ~ 25 日、岩手県民会館で開催さ



MACHIKADO **EPORT** No.191

街角特派員レポ

今ある自分の生活をどう楽しむ

街角特派員 高橋敏子 (谷中蛭沼·11区)

年近くになりますが、 館で講習会を始めました。 なんてステキな人生を 輝いている人にも出 突撃取材と歯に衣着せぬ直言で気になる事業の進ちょく状況、 街角特派員とは 「になる事業の進ちょく状況、または自分が皆さんにアピー人が年2回ずつ、「広報おうら」にレポートを掲載します。 たくさんの

過ごしているのでしょうと感じる人

パンアレンジの世界

想い

高橋さんの考案したパンアレンジとは?

高橋さんはフラワーアレンジをさらに独創的に発展

れた「東日本復興祈願・芸術クリスマス展」のようすです

馬頭琴に魅せられて

石﨑初江さん(秋妻・17区) ました。 れたのもやっぱり好きだからです。 の力に改めて感動しました」と岩﨑さん。「私が馬頭琴を長く続け 「私の演奏を聴いて、 自分の演奏で人に感動を与えることができるなんて…。

3 2012 * OCT

活の一部になっています。と私じゃないという感じがします. 出会えるとは思いもしませんでした。

毎年公募で決定。 町づくりへの意見や

したいことなど

街角特派員は、読者の皆さんの代表です。

ぬ直言で、

皆さんの

広える喜び

私の生きがいトーク2

染め上がった 「きんちゃく」

きがいづくりが、幸せづくりに結びつく…。二人のかたにお話しをうかがいました。人。人それぞれに喜びと生きがいを感じられる貴重な時間が流れています。こうした生自分の技術を皆さんに伝えることを喜びにしている人。毎週の教室を大切な人と楽しむ

らには町文化協会の役員を務めるな レンズ」代表や、 を手がけるボランティア「フラワーフ 野絣会の代表を務める小久保しず子さ 続けてこられたのだと思います」。 れる「ふれあいサロン」の活動、 「皆さんに必要とされるから、 一今振り返ると藍染めが私の原点か 幅広く活躍しています。 おうら中央公園の花壇の管理など 前原公民館などで行 長く さ 中

布ぞうりの作り方を教える

小久保さん。その他にも公民館 などで数多くの講師を務めます

たと言 存。染め物を行うほどになりました。 のが転機となり、 公民館主催の藍染め教室に足を運んだ 婦で藍染めとは無縁の生活でしたが、 もしれません」と小久保さん。専業主 います。今では染料を自宅に保 この世界に魅了され

染めの洋服に生まれ変わります」。フォームにもつながり、自分だけの藍 なくなった洋服などを染め上げるとリ さみで布を絞って染めに入ります。 をします。私たちがするのは絞り染め ロンのメンバーを自宅に呼んで藍染め フォームにもつながり、 ります。各自思い思い輪ゴムや洗濯ば 生地の性質によっては、 「絣会の会員や、地区のふれあいサ 絞ったところが白くなり模様とな 染めの回数 着

> 色合いも違ってくるとい なども変わってくるそうです。藍色の います。

藍染めを今に伝える

小久保しず子 さん(前原・4区)

れしいですね」。のいく藍色がでたときは、 考えながら染め上げていきます。 を染料に入れる最適な回数は…などと 「鮮やかな藍色がこの染め物の醍醐 どんな色合いに仕上がるか、 やっぱりう

数が変わるといいます。

は続けていきたいと思います」。 多方面で活動している小久保さん。「皆 きには染め上げを手伝い、 にされる忙しい日々は続きそうです さんが喜んでくれるなら、元気なうち 皆さんにアドバイスをしながら、 今も忙しく

干して乾かす





ていねいに洗う

さん。空いた時間を利用して練習する どおりの書にはならないです」と添田 昇級できるのも励みになります より集中力を高めて書かないと、 ね 思い

たことが一番ですね」・ていきたいです。自分 ります。 と。「これからも孫と一緒に書を続け 現在の目標は、 集中して書き終えた後に、 掛け軸に挑戦するこ

ようにしているそうです。

きに、

やっぱりきれいな筆文字の方が

クラブに通っています。

ただ一人の小

学生理陽さんは、

クラブでもアイドル

理陽さんを誘って、一緒に邑楽町書道。現在、小学校3年生になる孫娘の

と思って始めました」と語ります。 あったので、これを機会に書を習おういいですよね。公民館に書道クラブが

添田美津江さん(前瀬戸宿・8区) Mitsue Soedia

けながら、 皆

皆さんからやさしい応援を受

「孫と切磋琢磨しながら書がうまくながら、書を楽しんでいます。

なるように練習しています。

頑張れば

書道クラブに通う二人。

今日も真剣な眼差し を書に向けます。

孫娘と書道を楽しむ

江さん。「祝儀袋などに名前を書くと ラスラと半紙に筆を滑らせる添田美津 に通うのが今一番の楽しみです」。ス「孫娘と一緒に公民館の書道クラブ

顔を見せました。 て書き終えた後に、笑すね」と添田さんは語。自分が楽しいと思っ

滑らせていました。もっ







5 2012 * OCT ORA TOWN * Public Relations

を大切に

しながら、

りの練習にも一

層

ます」と語ります。

て毎日が充実して

人と人とのつながり

出会い

今もこれからも自分が輝くために ■ 趣味で華やぐマイライフスタイル ■

私の生活を彩る趣

自分にあった趣味を見つけた人は、たくさんの楽しいことや、おもしろい発見があります 偶然とも必然とも感じられる趣味への出会いが、ときにその人の人生を変えていきます。 興味のあることに思い切って飛び込めば、日常に彩りが加わる…

はじめたばかりの人、面白みが増している人、極めようとする人。いま熱中する姿で輝く、 5人のかたにお話を聞きました。

暗く家の

中でふさぎ込むことが多かったとい

鉄工所を営んでいましたが、

高齢になり

ればあげて

必要としている人がい

竹とんぼは近くの保育園に寄附

今も暇をみつけてはこつこつと作

竹細工をするよう

護士をしていた富樫克依さん。

ふさぎ込んだ生活を送っていたかもしれません」。

ランと出会って

なか

暗く

看

た竹をもらい受け、

趣味で竹とんぼや日

用品を作って

廃材となっ

るために仕事を辞めました。

ご主人が他界



皆さんとは和やかな中でインタビュー

練習した分、 しいです」

とき、美しいハーモニーを醸し出します

はチャ

ね

小島さん。

いきたいです」

ら長く続けていきた 歌声を披露すると華 元気になってもらうと、 ちに聴いてもらいたいですね。私たちの歌声を聴いて て歌う機会がうれしいです。 団のメンバーに加わりました。「みんなで心を合わ が好きだったことと、 歌声を響かせている小島和子さん。 「高くきれいな歌声を出せるかが今 いだ気分になりま 好きな合唱だか か月前から邑楽町民合唱団でソプラノ 「声を出すとスッキリする なども開催し リティーコン これから トで 趣味をひとつ持ちたいと、 さらにう もともと歌うこと 生活も活性化し の課題です 多くの人た 担当として と語り ごとに別れた一人ひとりの歌声が 合唱 3 せ

うです。

「苦労した分、

きれいな作品にできあがった出ないので、奥が深く難しいそ

ときが、とてもうれしいです

恥ずかしい

と森田さん。「自分の作品を褒めら

お気に入りの作品は、

ンジは楽しいです。パンを使い、そこにお花を添える。 ンアレンジ教室の生徒さんでもあります。「パンア

同じものはできません。

キャンバスの花の配置や、組み合わせ、は思っていたより大変だといいます。

組み合わせを考え、

奥行き

いですね」と語ります。佐藤さんは、私の主催するパ趣味です。お花の彩りが、生活の中にあったほうがい趣味です。お花の彩りが、生活の中にあったほうがいがといいるが思い年。公民館の講座に足を運んだのがきっかけで

構想を練って、

を出さないと立体感が出ないので、

と家事の

の傍ら作品作り

りに打ち込んでいます。

作品作

仕事

ジ歴10年。

しいです」。

佐藤博子さんは、

喜ばれたときが

押し花教室に通う森田さが子さん。

レゼン

れた作品に

コンサ

かになります。何か けれど、やっぱり いれると、恥ずかしい かになります」 自分で楽しめるものみになります。何か 度は、 続けていきたいで がひとつでもあると す」と語ります。「今 ーツバスケッ いですね。 野の花のフ やっぱり励 今後も



↑根気のいる作品作りを黙々と進めます。 花の配 置や、組み合わせを考えながら打ち込んでいます

ざわざケースを購入 りするそうです。「わ 親しい友人にあげた

私の作品を

るんですよ」と、 飾ってくれる人もい 品は、

家に飾ったり

ンジに使う素材のパンは、本物を使っ

たり、本物そっくりのパンを使ったりします

ん。できあがった作 ままです」と佐藤さ 分の感性のおもむく 毎回違う素材を使うので、 心惹かれて、 し花をしている友達からプ 森田さが子さん(十三坊塚・6区)

小島和子さん (新中野・33区)

小島さんの所属している「邑

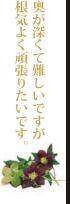
楽町民合唱団」は、邑楽町公 民館まつり、邑楽町民文化祭

などで、心のこもった華麗な

歌声を毎年披露しています。

Kazuko Kojima

「押し花教室」はメンバーの 都合のよい日を選んで、毎月 開催しています。森田さんも 自分の時間に合わせて、教室 で押し花を楽しむ一人です。



コみ

んなで歌声と心を合わせ

ンサ

トに臨みたい

です

「自分の作品をプ レゼン

> るものを使って創作する一風 変わった「パンアレンジ」。 佐藤さんは、毎月楽しみなが ら作品作りに打ち込みます。



佐藤博子さん (鶉上・12区) ●パンと花、そして日常にあ

風変わった「パンア ってみると案外楽しい

使い勝手がよく いんです

、菜ばしや竹とんぼを地道に作って



富樫克依さん (藤川・16区) Yoshie Togashi

●富樫さんは、「よさこいお さこいソーランに打ち込み毎 🦫 週汗を流しています。手芸な ども長くたしなんでいます。



今では、

、よさこい

ソ

の生きがいになって

1

病気のご主人を介護す 命メンバーと「よさこいソーラン」を踊りました

いですね。お友達もずっと続けていきた

きがまた最高です。

よさこいは生きがいになっています。

になったそうです。

「周りの

人たちも親切で、

となり、それからは積極的にサークでも、友人に誘われて始めたよさこ

-クル活動をするよう 上手に踊れたと -ランが転機 した後は、 います。 今では 暑さにも負けずに一生懸 になったそうです。今も暇をみつ、工場をたたんだのをきっかけに、 喜んでくれます。何よりその笑顔を見るのがうれし り続けています。「竹とんぼをあげると子どもたちは、 日用品の菜ばしは、 しまいます。 いる水沼宗作さん。

す。地元の主婦からで温かみがありま と笑顔で話してく それでい は、作り続けたいで 手に何となく馴染ん と水沼さん。菜ばし す。要は喜ばれれば、 も喜ばれています。 自分が動けるうち

富樫さん。「楽しくのが楽しみです」と

増えて毎回参加する

います。何より皆さんの喜ぶ顔が見たいからです



水沼宗作さん(谷中蛭沼・11区) Sosaku Mizunuma

●水沼さんは、「11 区芸術祭(毎 年3月開催)」に竹細工を出展 しています。水沼さんの作る 菜ばしは、持ちやすいと地元 でも人気を博しています。



7 2012 * OCT ORA TOWN * Public Relations



取材を終えて 【街角特派員レポート】

> 輝ける瞬間は、 だれでもいつでも持っています。

生をステキに演出

感じで踏み出してください。 じゃないですか。 生きがいを持つことって、 一度しかない人生です。 最初から一歩さがらないで、 マイペ 素晴らしいことだと思いませんか。 、ースで、 しかも自分流でい 半歩前へ出る

きっと自分が輝ける瞬間に出会えるはずです。

街角特派員 高橋敏子 ジを体験した人が、「初めてなんです」

「センスないから」、「わあ、うれし

人と出会ってきました。フラワーアレン さまざまな場所に足を運び、

たくさんの

私は、フラワーアレンジの講師として

出会った人たちと楽しさや喜び、そして感動を共有していきたいです

てみてはいかがでしょう 始めてみて、

いかもしれません。

自分なりの楽しみを見つけません。身近なところから

公民館のサークルに入ってみるのも

最後になりましたが、今回の街角特派

段としてボランティア活動でもいいです感じで踏み出してほしいですね。その手

初から一歩さがらないで、

半歩前へ出る

好きなことは自然と長続きします。

最

ジがあったから、今の自分があると思っが一番大切です。私は、フラワーアレン

ています。

たくさんあります。試した中から自分に みないと分からないことも世の中には、

合ったもの、楽しめるものを探し出す

ることをお勧めします。

とでも気になったら、

とにかくやってみ 皆さんもちょっ

いろいろ試して

一度だけの人生です。

やがて自分で考えるようになり、 かんでもオアシス(吸収スポンジ)にお たお花が盛りだくさんのフラワーア 始めたばかりの子どもたちは、 その自由な発想が大切です。 バランスを無視 何でも 「お花 いですね。 とでした。 館祭りでフラワーア

ジですが、

花を挿したがります。

きたいと改めて感じました。 顔を見せてくれています。 私の教室が必要とされる限りは、

などと気づいていきます のバランスが悪い」、「お花が長すぎた」

創造力を豊かにしながら、 小学5年生の栗田優衣菜さんも教室に 成長してほ

通う一人です。きっかけは、 あれから2年、 レンジを体験したこ 彼女は今も休 邑楽町公民

べらなかった子が最近ではよく笑大人しい性格で、まったくしゃまず教室に通っています。 の子の笑顔をもっと大切にしてい 私はこ

の生きがいにつながっていますり子どもたちとのふれあいは、今後も続けていきたいです。 私

いから教室を始めました。のふれあいを大切にしてほしいという思 フラワーアレンジの楽しさや植物と 子どもフラワーア 子どもたち 子どもたちには豊かな発想力があります 好きなものを見つけてほしい」 縛られない発想で作品を作り上げます。大人が持っていない感性とルールに子どもたちの可能性は限りなく無限で

レンジ教室を開いて

私は自宅で月1

回 います。

> 「優衣菜は、ものをつくることが好き な子です」と母親の栗田千景さん。娘 の優衣菜さんがフラワーアレンジの教 室に通い始めて2年が経ちました。「今 まで教室を一度も休んだことがありま せん。きっと自分の大好きなことだか ら、長く続いているのだと思います」 と千景さん。「大人しくてマイペース な子ですが、いろいろなことを経験し て自分の好きなものを見つけてほしい ですね」と母親の顔をのぞかせました。



(母)栗田千景さん (娘)優衣菜さん (前原・4区)





お母さんにインタビュー 「いろいろな経験をしてみて、

を、

5分流でいいと思います。 改めて実感できました。

た。私は、

今回の取材を通してこの邑楽 本当にありがとうございまし

た皆さん、

町にも輝いている人がたくさんいること

員レポー

トの取材に快く応じてくださっ

報告をしている姿が想像できて、

心が温まりま

いきれいだろ」と仏壇に向かって今日

めに作ったフラワーアレンジだ。 ぶっきらぼうに「おい

すっご

奥さんの仏壇にお花を供えるためにフラ

ーアレンジを学びに来ました。その日、

!今日おまえのた

りを今でも覚えています。む笑顔を見ました。そのかたの手の温も 顔を近づけ、満足そうに花の香りを楽し

またある日、「母ちゃんにあげるん

と参加してきた男性は亡くなった

ポンジ)に何本か挿すと、

自分から花に

トして手渡し、

オアシス(吸水ス

ある所で、

目の見えない男性がフラ

れだけで満足です。

作品を写真に収めている姿を見ると、 口々に言いながら、うれしそうに自分

ーアレンジに参加してくれました。

花